

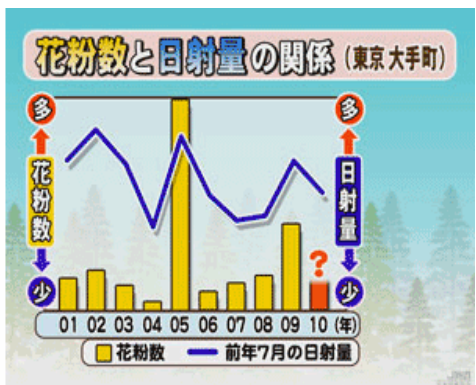
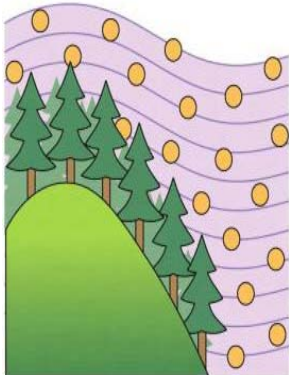
ご存知でしたか？

来年のスギ花粉飛散量は 今年の夏の気象に影響されます！



■■■2011年は花粉が大量発生する？！■■■

スギ花粉はスギの雄花で作られます。この雄花の発育は前年の夏の気象に左右され、前年の7~8月初めの気象条件にスギ花粉の量が影響されます。2009年の夏は梅雨が長く、気温は九州を除いて平年並みでした。全国的に日照時間は短く、降水量は中国地方で雨災害が起きるほどでした。その結果、2009年の夏の気象はスギの発育にとって条件が悪かったため、2010年の花粉発生量は少なく、例年ほど花粉症が発症しませんでした。一方、気象庁発表の2010年夏以降の気象は、平年より暑く厳しい残暑が9月以降秋まで続くとの予測です。その結果、今年のスギの雄花は発育が刺激され、2011年春のスギ花粉量は例年を上回るものと考えられます。また気象の影響は、スギ花粉の後から発生するヒノキ花粉などにも同様の影響を与えます。



■スギ花粉の飛散■■■



1 雄花が花粉を飛散させる

スギの花は雄花と雌花に分かれます。花粉を飛散させるのは雄花です。スギは7月から8月にかけて雄花になる細胞が分化して成長を始めますが、このときの気象条件、日射量や気温、降水量などによって、雄花の量が増減し、これによって翌年春の花粉量が増減します。

2 気温が高く日射量が多いと花粉は多くなる

気温が高く日射量が多いと花粉は多くなり、逆に雨量が多く湿度が高いと花粉は少なくなっています。つまり、前年の7月が高気温・少雨(猛暑)であれば、翌年の花粉が多くなり、低気温・多雨(冷夏)であれば花粉は少なくなるという関係になります。

3 花粉の飛び始めは最高気温を足し算する

1月の気温が高いと飛散が始まる時期が早くなります。スギ花粉飛散開始日については1月1日からの毎日の最高気温を積算した数値で予測できると言われ、この数値は関東地方でおおむね350~400、東北北部で250くらい、東京では毎年2月上旬あたりから飛散が始まります。



■花粉症は何月まで続く？■■■

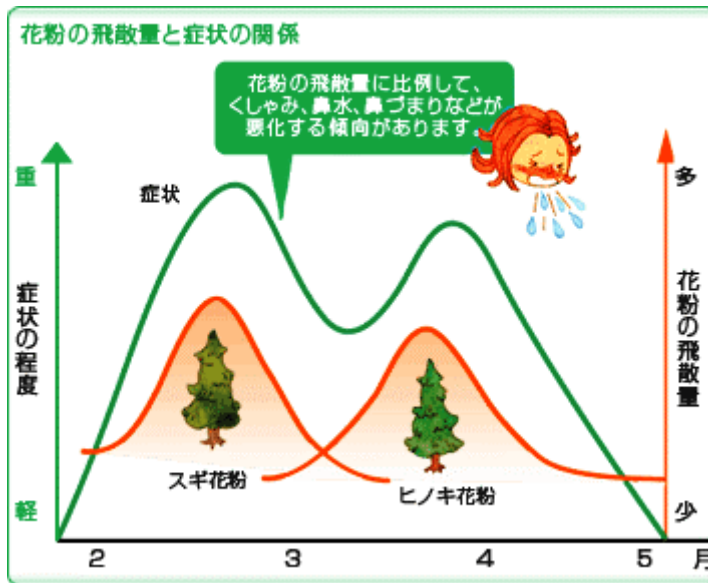


スギ花粉は4月には飛散量が減りますが、その後4月になっても5月になっても症状が続くことがあります。これはヒノキの花粉が3月半ば頃から飛散を始めるからです。また、花粉アレルギーの人は花粉以外のアレルゲンでもアレルギー症状を起こすことが多いと言われています。



■花粉の飛散量と症状の関係は？■

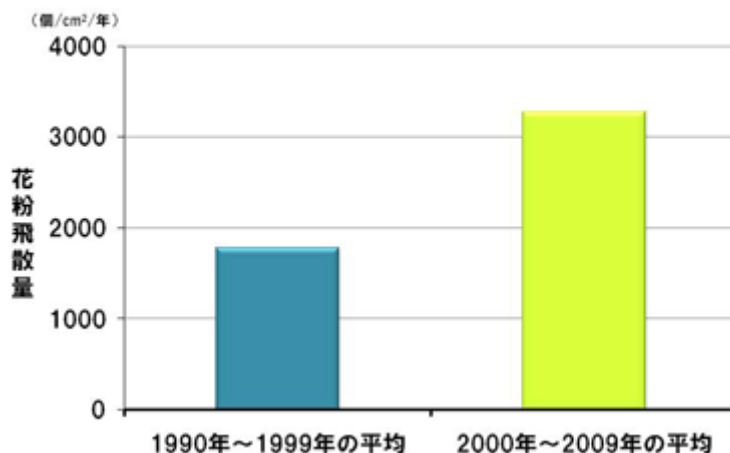
関東地方を例にとると、2月頃からスギ花粉の飛散が始まり4月下旬に飛散が少なくなります。そして、ヒノキ科花粉の飛散がはじまり、5月末頃まで続きます。くしゃみ、鼻みず、鼻づまりや眼のかゆみ・異物感などの症状は、花粉の飛散量に比例して悪化する傾向にあります。



■近年の花粉飛散量は？■

春のスギ・ヒノキ科花粉総飛散数は、昔に比べて増加している傾向にあります。過去20年間の花粉飛散数を記録している千葉県船橋市を例にとると、1990年から1999年に飛散した花粉量の平均より、最近の2000年から2009年に飛散した花粉量の平均の方が多くなっていました。「花粉が少ない」と言われる年でも、昔に比べて飛散量が格段に増えていますので十分な対策が必要です。

花粉飛散量：10年間の平均値



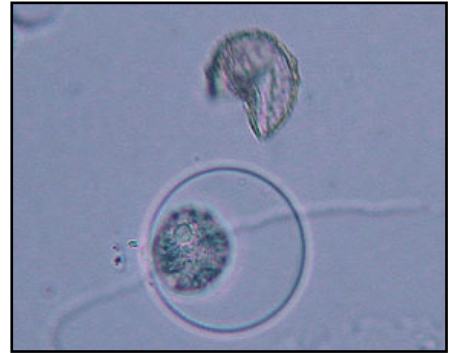


■スギ花粉アレルギーが無効化してしまう?! ■■■

スギ花粉の内部にはアレルギーの原因物質となる「アレルゲン (=タンパク成分)」が収納されています。花粉が粘膜に触れるなどして水分を受けると、外殻が開いて (割れて) 中からアレルゲンが出てきます。

(写真↓は、割れた直後に飛び出したアレルゲンの写真です。)

- i. このアレルゲンを私たちの免疫体系があやまって「異物」として認識してしまうことで、その後アレルギー症状が出てきます。
- ii. 二酸化塩素分子<ClO₂>は、これら花粉内部に浸透して「アレルゲン (=タンパク成分)」を酸化させて、私たちの免疫体系が「異物」として認識できないように変性させます。
- iii. また二酸化塩素分子<ClO₂>は、花粉が水分を受けた時に開く組織機能にも働き、私たちの粘膜に触れるなどして水分を受けても開かずに中のアレルゲンが出てこなくなります。
- iv. ちなみに、私たちそれぞれは個々によって免疫力が異なるため、アレルギー症状が発症する場合と発症しない場合があります。また初めて「アレルゲン」に触れてから発症するまでの期間も個々によって異なります。



■ちゃんと調べてみました!! ■■■

コーベジオケミア(株)では、ピンマイク型除菌器具(オックスプロ・パーソナル)が、花粉アレルギーの賦活化にしっかりと機能しているか、第三者評価機関で調べてみました!

■□■ 販売/お取扱いのお問合せは ■□■
コーベジオケミア(株) TEL078-326-5100



オックスプロ・パーソナル
OXPro-P
ピンマイク型除菌器具

【検証データ】『試験名:スギ花粉アレルギー抑制試験』

ITEA 株式会社東京環境アレルギー研究所調べ (2010. 06)

5.結果

スギ花粉アレルギー (Cryj1) 濃度

試料No.			(ng/ml)
	暴露 (+)	暴露 (-)	
1	0.17	1.47	
2	0.09	1.64	
平均	0.13	1.55	減少率
標準偏差	0.06	0.12	91.8%

・検出感度:0.05ng/ml

抗原濃度減少率* 91.8%

*減少率は、平均値から算出

6.まとめ

- 1) 「OXPro-P (ピンマイク型除菌剤)」について、二酸化塩素錠剤を用いたアレルギーシートへの暴露を行い、暴露後のスギ花粉アレルギー (Cry j 1) 濃度を測定して、アレルゲンの低減効果を検討しました。
- 2) スギ花粉アレルギー (Cry j 1) 濃度は、対照に比べ低下しました。
- 3) 「OXPro-P (ピンマイク型除菌剤)」の二酸化塩素錠剤は、スギ花粉アレルギーの低減に有効であることが示唆されました。



ITEA 株式会社 東京環境アレルギー研究所
〒113-0034 東京都文京区湯島 2-2-4 スワンビル
電話 03-5840-8983 Fax03-5840-8984

